

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成29年2月23日 (2017.2.23)

【公開番号】特開2017-816(P2017-816A)

【公開日】平成29年1月5日 (2017.1.5)

【年通号数】公開・登録公報2017-001

【出願番号】特願2016-174176(P2016-174176)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

【手続補正書】

【提出日】平成29年1月17日 (2017.1.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、
所定条件の成立にもとづいて可変表示期間を短縮した短縮可変表示を実行可能な可変表示実行手段と、

可変表示に関する情報を、保留記憶として記憶可能な保留記憶手段と、

前記有利状態に制御されるか否かを判定する判定手段と、

前記判定手段の判定にもとづいて、当該判定手段の判定対象となった保留記憶にもとづいて可変表示を行うよりも前に予告演出を実行する予告演出実行手段とを備え、

前記予告演出実行手段は、

前記有利状態以外の状態である場合に、可変表示の実行中であるか否かに応じて異なる割合により前記予告演出を実行し、

さらに、可変表示の実行中であるときには当該可変表示が前記短縮可変表示であるか否かに応じて異なる割合により前記予告演出を実行し、

複数種類の態様により前記予告演出を実行可能であるとともに、

複数のタイミングにおいて前記予告演出の態様を変化可能である

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

(手段 1) 本発明による遊技機は、可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態（例えば、大当り遊技状態）に制御可能な遊技機であって、所定条件の成立（例えば、通常大当り、確変大当り、突然確変大当りの発生）にもとづいて可変表示期間を短縮した短縮可変表示を実行可能な可変表示実行手段（例えば、図 6 に示す非リーチ PA 1 - 2 の短縮変動の変動パターンに従って、遊技制御用マイクロコンピュータ 560 におけるステップ S 303, 304, S 32 を実行する部分。演出制御用マイクロコンピュータ 100 におけるステップ S 801 ~ S 803 を実行する部分。）と、可変表示に関する情報（例えば、

ランダム R (大当り判定用乱数) や、大当り種別判定用乱数 (ランダム 1)、変動パターン種別判定用乱数 (ランダム 2) および変動パターン判定用乱数 (ランダム 3) を、保留記憶として記憶可能な保留記憶手段 (例えば、第 1 保留記憶バッファ、第 2 保留記憶バッファ) と、有利状態に制御されるか否かを判定する判定手段 (例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ 560 におけるステップ S 1217A, S 1217B を実行する部分) と、判定手段の判定にもとづいて、当該判定手段の判定対象となった保留記憶にもとづく可変表示を行うよりも前に予告演出 (例えば、保留予告演出) を実行する予告演出実行手段 (例えば、演出制御用マイクロコンピュータ 100 におけるステップ S 800A を実行する部分) とを備え、予告演出実行手段は、有利状態以外の状態である場合に、可変表示の実行中であるか否かに応じて異なる割合により予告演出を実行し (例えば、演出制御用マイクロコンピュータ 100 は、ステップ S 6002 で N のときにはステップ S 6004 で保留予告決定テーブル 1 を選択可能であり、ステップ S 6002 で Y のときにはステップ S 6008、S 6009 で保留予告決定テーブル 2, 3 を選択可能であり、図 38 に示すように、保留予告決定テーブル 1 と保留予告決定テーブル 2, 3 とで保留予告演出ありの判定値の割り振りが異なっている)、さらに、可変表示の実行中であるときには当該可変表示が短縮可変表示であるか否かに応じて異なる割合により予告演出を実行し (例えば、演出制御用マイクロコンピュータ 100 は、ステップ S 6005 で Y のときにはステップ S 6008 で保留予告決定テーブル 2 を選択可能であり、ステップ S 6005 で N のときにはステップ S 6009 で保留予告決定テーブル 3 を選択可能であり、図 38 に示すように、保留予告決定テーブル 2 と保留予告決定テーブル 3 とで保留予告演出ありの判定値に割り振りが異なっている)、複数種類の態様により予告演出を実行可能であるとともに、複数のタイミングにおいて予告演出の態様を変化可能であることを特徴とする。そのような構成によれば、予告演出が実行されるときに実行中の可変表示に対しても遊技者に興味をもたせることができ、予告演出を用いた遊技の興趣を向上させることができる。